

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～「自分・・・『革命』を起こすには・・・？」～

今までの自分を倒し、新しい自分と出会いたいと思うときありませんか？

そんなときは・・・明治維新の立役者・・・坂本龍馬がいかにして・・・革命を成し遂げたのか・・・がとても参考になります。

今回も・・・ひすい ことろう さんの本『心にズドン！と響く「運命」の言葉』からです。

では・・・どうぞ・・・

「倒幕」264年続いた江戸幕府を倒した坂本龍馬には、こんな逸話が残っています。

当時、土佐藩では長い刀が流行していましたが、坂本龍馬は短刀。

「なぜ、短刀なのか？」と友人が聞くと・・・

「実践では短い刀のほうが取り回しがよいから。」と龍馬は答えました。

友人はさっそく短刀を差し、龍馬に見せに行くと・・・

龍馬は懐から「拳銃」を取り出し・・・

「銃の前には刀なんて役に立たない」と言いました。

納得した友人が拳銃を買い求め、再び龍馬に見せに行ったところ・・・龍馬はなんと言ったか・・・

龍馬は、万国公法（国際法）の洋書を取り出し・・・

「これからは・・・世界を知らなければならない」と言ったそうです。

龍馬はまず、土佐藩を脱藩し、自分を縛っていたものから脱出しました。そして、日本初の株式会社「亀山社中」・「海援隊」を結成し貿易を始めます。

「鎖国」という枠のなかで暮らしていた時代に、龍馬は自由の身になり、異国の知恵を取り入れたのです。

龍馬は「視野」が違った。見えている風景が圧倒的に違っていたのです。だから世の中の流れが見えた。流れが見えた人だけが・・・「革命」を起こせます。

さて・・・古い自分を・・・倒すために・・・どうするか・・・それはね・・・
「出会う」ことです。

「こんなふうに生きている人がいるんだ」「こんな考え方があるのだ」と自分の常識を蹴飛ばしてくれる「異邦人」と出会うことです。

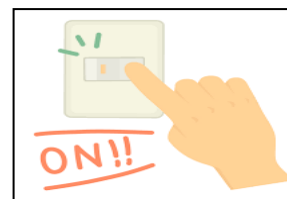
それが「自分維新」「自分革命」の鍵を握っています。

「異邦人」は教えてくれます。

「自分はこんな狭い、ちっぽけな価値観に縛られていたのか。」と。

そこに気づくこと。いつだって革命はそこから始まります。

「命」を「革（あらた）にする」と書いて・・・「革命」です！



どうでしたか？気をつけないといけないのは・・・「自分はこんな狭い、ちっぽけな価値観に縛られていたのか。」という「出会い」は・・・向こうから勝手にやってくるものではない。誰かが与えてくれるから待ってればいい。というものではないということです。

「自分で得ようとしてしないと」、「自分から気づこうとしないと」、「自分から一歩踏み出さないと」その「出会い」には出会えないということです。

授業に、講演会に、高校生活（部活動・学校行事）に、何かを得ようと参加する。自分で本を買って、図書館に行き借りて読む。映画を見る。旅に出る。

とにかく・・・これまでの「自分の枠」を越えて、これまでと違うものに出会うために「一歩」踏み出すことです。それが・・・「自分革命」のスタート！です。